

平成 19 年 11 月 12 日

各 位

会 社 名	ユナイテッド・テクノロジー・ホールディングス株式会社
代 表 者 名	代 表 取 締 役 社 長 若 山 陽 一
コ ー ド 番 号	2 1 4 6
問 合 わ せ 先	取 締 役 フ ァ イ ナ ン ス 企 画 部 長 島 田 恭 介
電 話 番 号	03(5447)1710

平成 20 年 3 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想、 ならびに期末配当予想の修正に関するお知らせ

当社が平成 19 年 8 月 27 日付「平成 20 年 3 月 期 第 1 四 半 期 財 務 ・ 業 績 の 概 況」にて公表いたしました当社の平成 20 年 3 月 期（平成 19 年 4 月 2 日～平成 20 年 3 月 31 日）通期連結業績予想、ならびに平成 19 年 5 月 30 日付「平成 20 年 3 月 期 中 間 期 連 結 業 績 予 想、通 期 連 結 業 績 予 想 ならびに期末配当予想の修正に関するお知らせ」にて公表いたしました当社の期末配当予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 20 年 3 月 期 通 期 連 結 業 績 予 想 数 値 の 修 正（平成 19 年 4 月 2 日～平成 20 年 3 月 31 日）

（単位：百万円、％）

	売 上 高	営 業 利 益	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A)	44,100	3,250	3,250	1,596
今 回 修 正 予 想 (B)	48,000	4,000	4,000	1,800
増 減 額 (B - A)	3,900	750	750	204
増 減 率	8.8%	23.0%	23.0%	12.7%

* 当社は平成 20 年 3 月 期が初年度であり前期実績はございませんので記載しておりません。

2. 修正の理由

アウトソーシング事業におきましては、労働市場の逼迫や顧客ニーズを踏まえて、当期初より増員による拡大路線から、徹底したコスト削減や高付加価値業務へのシフト、出来高請負ラインのレベルアップを中心とした価値充実路線へと転換を進めております。中間期におきましては、特に出来高請負ラインの効率化による売上総利益の改善が進捗し、また全社的な経費低減活動および業務のシステム化による業務効率改善によって販管費の上昇を抑えることができました。

製造装置事業におきましては、中古装置販売事業で第 2 四半期以降の急激な円高の影響による業績の落ち込みがあったものの、装置製造・販売事業が、中間期において FPD メーカー・素材メーカーを中心に当初予定を上回ったことや、売上総利益率の高い自社製品やコンサルティング関連の売上比率が高まったこともあり、全体の業績に寄与する結果となりました。

下半期につきましては、アウトソーシング事業において上半期の各種改善活動を引き続き実施することで業績は予想を上回る見込みであります。

製造装置事業においては、装置製造・販売事業において、半導体・FPD 業界全体の設備投資に一服感がある見通しですが、中古装置販売事業においては、高価格の立上げ保証付き装置販売の売上が期後半に見込まれることや中国向けの大型装置移設案件の手数料収入が見込まれることなどから、製造装置事業としての業績は堅調に推移する見込みであります。

以上により、当期における業績予想は、前回予想に対して、売上高は 8.8% 増の 48,000 百

万円、営業利益および経常利益は 23.0% 増の 4,000 百万円、当期純利益は 12.7% 増の 1,800 百万円の見通しとなりました。

3. 平成 20 年 3 月期 配当予想の修正について

(1) 平成 20 年 3 月期 配当予想の修正

	中間期	期末	年間
前回発表予想	—	2,270円 00銭	2,270円 00銭
今回修正予想	—	2,550円 00銭	2,550円 00銭

* 当社は平成 20 年 3 月期が初年度であり前期実績はございませんので記載しておりません。

(2) 配当予想修正の理由

当社は、株主に対する利益還元を経営の重要課題と認識しており、株主配当につきましては配当性向 30% を基本方針としております。

今回の業績修正に伴い、期末配当予想を 1 株につき 280 円増配し、2,550 円といたします。

(注) 当資料に記載する業績予想は、現時点において入手可能な情報に基づき、独自の判断により作成しておりますが、実際の業績は今後さまざまな要因により予想数値と異なる場合があります。実現を保証するものではありません。

以上